

第8回 かほく市行政改革推進委員会 会議録（要旨）

日 時	平成26年12月17日（水） 13時30分～14時20分
場 所	かほく市役所 西フロア3階 302会議室
出席委員	櫻井委員、今村委員、金谷委員、中谷委員、坂野委員、森（和）委員、中嶋委員、架谷委員
事務局	総務課【虎谷課長、小村課長補佐、澤野係長、網江主査】
議題等	1. 会長あいさつ 2. 議題 (1)第3次かほく市行政改革大綱（案）について (2)第3次かほく市行政改革実施計画 実施内容調書について
会議資料	第3次かほく市行政改革大綱（案） 第3次かほく市行政改革実施計画 実施内容調書

1. 会長あいさつ（櫻井会長）

2. 議題

(1) 第3次かほく市行政改革大綱（案）について ※各委員から意見をいただく。

（委員）

- ・市では様々な計画を策定していると思うが、何にしても人口というのは要になると考えている。市では、かほく市の適正人口は何人くらいと考えて計画を策定しているのか。

（事務局）

- ・市にとっての適正人口という概念は難しいものと考えているが、参考までに、様々な計画のベースとなる総合計画については、想定人口を3万6千人として策定している。

（委員）

- ・今月の広報紙に（第2次かほく市総合計画）市民アンケート調査の結果が掲載されていたが、市民がいかに住みやすいまちをつくるかが大切である。市民ニーズをしっかりと捉えたうえで、こういった行政改革実施計画の項目を一つ一つ実施され、市民の高い満足度につなげてほしい。今回、改めて大変な作業をこなされていると感じたところであるが、市民は住みやすいまちを望んでいるので、これからも引き続き計画的に市政を運営していただきたい。

（事務局）

- ・合併して10年が過ぎて、これから交付税が減額されてくる。今後控えている厳しい財政状況の中で、こういった行財政改革をしっかりと実践して、持続できるかほく市

の発展に結び付けていかなければならないと思っている。

- 先ほど人口のお話があったが、(平成17年度策定の)総合計画における平成27年度の総人口3万6千人というのは、あくまでも推計人口である。適正規模についてどれくらいが良いのかというのは人口としてはあてはまらないという感じがする。人口というのはその地域の活力のパラメーターとよく言われる。人口が増えれば大変活力があって賑やかな状況が生まれてくるわけである。かほく市においても少しでも人口を増やすため、活力のあるかほく市を目標に定住促進や子育て支援などいろいろな事業に一生懸命取り組んで参りたいと思っているので、委員皆様におかれては、それぞれの立場でご理解とご支援をいただくようお願い申し上げます。

(委員)

- 公共施設の駐車場に無断で駐車されている方がいるが、市では各公共施設の無断駐車
の把握をされているのか。

(事務局)

- 全ての公共施設において無断駐車を把握することは難しいところであるが、無断駐車
禁止の看板を設置している。

(委員)

- 今後は、地域の活性化についてどうするのかということが日本全国の大きな課題である。そのためには人がいなくてはならない。地元に戻って来たいという方もいるので、職員の採用について、定期的な中途採用というものをかほく市で設ければどうかと考える。地元に戻って働きたいという方々に対し、常にそういった門を開けておいて浸透されていけば、優秀な人材の確保、ひいては地域の活性化にもつながると思われる。

(委員)

- この行政改革推進委員会に参画させていただき、地元のことについて案外知らないことがたくさんあったと感じたところである。そういった意味でこの会議に参加させていただいたことに対し感謝を申し上げたい。
- 日本 BP 社発行の「2025年の巨大市場」という書籍に、かほく市の取り組み事例が掲載されていたので紹介をさせていただく。掲載されていた内容(上下水道施設を一体管理とした包括的民間委託の導入)は、まさに行政改革の推進における一つの成果であり、全国自治体の先進事例として取り上げられている。これはかほく市がきめ細かく行政改革推進項目を挙げて取り組んでこられた成果であると感じているので、今後も継続して実施していけば十分な結果が得られるのではないかと考える。

(委員)

- かほく市は本当に恵まれていると感じる。女性会の活動一つにしても県内の他の自治体と比べると補助金を多くいただいている。いろいろな面で行政が関わって市民は恵まれた環境で生活を送ることができていると実感している。
- 反面、これは私見になるが、あまりにも恵まれすぎて、市民一人ひとりがまちのために何かできることはないかというような意欲が全体的に欠けてきているように感じることがある。近年、個人情報保護ということでも名前や所在を調べることに大変苦慮しており、女性会にいたっては会員が年々減少して深刻な状態であるが、子ども会や老人会においても同じような悩みを抱えていると思われる。市民が一丸となって何かを取り組むためにどうすればよいかという意識が大事である。市では試行錯誤して

事業に取り組みられているようだが、昔からある女性会、壮年団、青年団、子ども会がしっかりしていれば、防災や防犯などいろいろな面においてスムーズに運営ができると考える。新しく何かを立ち上げようとしなくても昔からある団体をしっかりと継続していけば軸のぶれないまちにつながると思っている。

(委員)

- 若者が定住してくれるような施策をこれまで実施してきたことが住みよさランキング7位という形に表れたのだと思っている。また、このような結果が呼び水となって、さらなる定住促進につながればと思っている。若者に対する定住促進事業については、当面は継続していただきたい。保育園の統廃合についても、今年度で整備されるので、定住促進事業にさらに活かされると思われる。

また、企業誘致に際しても、民間事業者に対する助成についてもしっかりとPRをしていき、かほく市の活性化に向けて行政改革の推進に努めていただきたい。

(委員)

- かほく市は、これまでの施策の成果として人口面においても安定した数字を維持していると思っている。昨今言われているのが、将来的に多くの自治体が消滅するという一方で、非常に危機感を持っているということをお聞きする。集落単位でいけばもう存続できないという話もあり、よく限界集落という言葉をお聞きするが、限界集落を通り越して集落が消滅するという危機意識を持っているところがたくさんある。
- 総合計画では、3万6千人という計画人口を掲げてこれまで市政を運営してこられたが、長期計画において掲げている数値と実態に沿った数値との乖離は必ず出てくるものである。今回の行政改革実施計画においても十分検討していただきたいが、このような長期における計画の目標数値を過大にしたことによって、絵に描いた餅にならないようにしなければならない。今後、いろいろな長期計画を立てられる際は、ある程度現実的な数値を目標に掲げられたほうがよいと考える。人口はどう考えてもなかなか増えないのが現状である。もちろん、人口を増やすための施策を講じていくことは大切であるが、人口を増やすための施策を講じるから人口が増えるという数値を安易に掲げてしまうと後々過大施策だけが残ってしまうので、その辺は十分考慮していただきたい。

(委員)

- 現在、国において、大都市圏に立地する企業が地方に本社機能を移転する場合に、法人税を優遇する制度を創設するということが新聞等で報道されている。また、本日の新聞において、自治体が独自に企業に対し、法人住民税などの地方税減税の優遇をする場合は、自治体の減収分を国が交付税で穴埋めすることも検討しているということが掲載されていた。住みよさランキングが上位であることは非常にインパクトがあるので、そのことをどんどんPRしていくことが、企業誘致においても好影響を与えるのではないかと考える。

(事務局)

- 委員の皆様の貴重なご意見を踏まえて、かほく市の発展のために、このかほく市行政改革大綱を策定してしっかりと取り組んで参りたい。

(2) 第3次かほく市行政改革実施計画 実施内容調書について（事務局）

※委員各位の意見を踏まえて実施内容調書の一部を赤字修正

（委員）

- ・実施項目 46 ケーブルテレビ利用料金の徴収体制の拡充・強化について、現状と課題欄の課題で、「滞納家庭においても最も基本的なコースでの視聴は継続できてしまうこととなり、ペナルティとしての効果が薄い。」とあるが、滞納家庭はそのことを分かっている支払いをしていないのではないか。

（事務局）

- ・そういった課題を踏まえて、第3次行政改革実施計画の実施内容において、滞納者宅の訪問を行い、場合によっては、延滞金の導入についても検討するということを記載させていただいた。

（委員）

- ・3箇月の滞納があった場合は、強制的に視聴できないようにすることはできないのか。

（委員）

- ・視聴できないようにする措置をして再び回復するときに一定の費用がかかってしまう。

3. その他

- ・次回の委員会について

平成 27 年 1 月 21 日（水）13:30 から開催することとした。

以上